



初めてでも大丈夫!
カンタンに
黒板が作れちゃう

馬形平次 ©2011 Nobuaki Sugiyama

フランスのマルシェ(市場)で使われているような黒板を作って、
直売所を彩る手作り黒板POPにチャレンジしませんか?

準備する道具

必要な道具は、たったの3つです。

黒板用スプレー	カラーチョーク	ベニヤ板
		
サンデーペイント(株)で販売しています。価格は1,500円程度で、ホームセンターやネットで買えます。	何色がある方が便利です。こちらは12色入りで400円ほど。	表面が粗くない種類を選びます。厚さは5mmもあれば十分です。使いやすいサイズに切断します。

手順1

ベニヤ板を適当な大きさにします。

ホームセンターでの購入時に、お金を払えば切ってもらえるので、それを利用するのもイでしょう。そうでない場合は、自分で切断します。

今回は、テーブルに立てかけるように大きい黒板(71cm×50cm)と、商品の値札用に小さい黒板(20cm×25cm)の2種類を製作します。

今回は、ノコギリで切断し、切断面に軽くヤスリをかけ準備しました。

手順2

黒板用スプレーをかけます。

色は黒と緑の2種類ありますが、今回はおしゃれな感じのある黒を選びました。緑も学校っぽく懐かしい感じでイイかもしれません。お好みでどうぞ。

新聞紙を引いた上にベニヤ板を置きます。スプレー缶は、かける前によく振ります。30cmほど離して、板にまんべんなくスプレーします。

スプレー後は、30分ほど乾かします。ゴミが付着しないように注意しましょう。



①シンナー臭がするので、屋外で作業する方がいいでしょう。



②ムラにならないよう、2度塗りすると良さそうです。



③塗り終わりです。30分ほど乾かします。

手順3

チョークで書いてみます。

今回用意したチョークは、チョークは12色入りのもので価格は400円ほどです。

まずは、十分乾いたのを確認し、ムラがある場合はもう1度スプレーをかけます。

しっかり乾いていれば、大丈夫です。普通の黒板のように書いてください。

消すときは、普通の黒板を消すように黒板消しか濡れ雑巾で拭くいいでしょう。

使っていくうち、汚れがひどくなれば、再度スプレーするといいようです。

何度も書いたり消したりを繰り返すうち、表面のザラザラがとれてしまいます。そうになると、チョークののりが悪くなるのでスプレーをし直すとイイでしょう。



①乾くと木目が透けなくなり、まさに黒板です。



②チョークもしっかり乗ります。書き味も普通の黒板のようです。



③濡れ雑巾で消してみました。多少跡が残りますが、問題なく使えそうです。

実際に使ってみました！

門別競馬場で実施された「日高うまいもの市」で、黒板POPを使用するまでの流れを紹介します。ちなみに、POPを書いた人は、今回初めてPOP書きに挑戦した人です。

手順1 図案を考える。

今回は、賑やかな感じを演出するためイラストなどを配置した黒板にすることにしました。そのための準備として、図案を考え紙に下書きをします。

下書きのポイントは、商品名や値段は大きめに書くこと。商品に付けるコピーはやや小さめで文字数を少なくすることです。イラスト部分は、今回使用する和牛串のお肉紹介としました。

手順2 黒板に書いていく。

チョークで書くポイントは、丁寧に書くことです。鉛筆と違い、思い通りの線を引きにくいので、ゆっくりとチョークの先を確認しながら書いていくとイイでしょう。

色を塗った後、指先でチョークをなじませると質感が出て美しく仕上がります。また、文字の周りを別の色で縁取るのも効果的です。



全体のバランスをみながら書いていきます。修正用の雑巾を用意しておくとう便利です。



完成です。小さい黒板を乗せてるミニイーゼルは、100円ショップで購入したモノです。

手順3 会場で飾ってみる。

門別競馬場の会場に飾ってみます。実際に置いてみると、こんな感じになりました。



屋外に置いてみると、思った以上に目立ちます。と言うのも、周りはパソコンで打ち出したようなPOPが多い中、黒板に手書きのPOPは他と全く違ってました。

中には、黒板の写真撮っている方などいても、好評でした。

また、小さい黒板は、完売や次回の販売時間を情報が変わる都度、書きかえて表示するのに便利で、こちらも重宝しました。

黒板を使ったディスプレイのアイデア

1 すぐ書き換えられる利点を生かす

例えば、朝から並んでいるトマトに「朝どり！トマト200円」と黒板POPを付けます。午後からは、お昼に収穫したトマトが並ぶとします。そうしたら「12:15に収穫！トマト200円」のようにPOPを書き直します。午後から訪れたお客さんには効果的です。

2 当たり前のような事もキチンと書く

農家の皆さんなら当たり前のように知っていることも、消費者は意外に知らなかったり不安に思ったりしています。なので、しっかり伝えましょう。例えば、「地元産」「朝どり」「樹で熟させました」「手作り」「食べ頃」「生で食べられます」など、当たり前を感じることで、改めて言葉にして伝えると消費者も安心します。

3 こまめに書きかえる

黒板POPは、書きかえなければ特徴を生かし切れません。例えば、毎日変わる野菜の状態を黒板に記載したり、野菜を持ち込んだ農家さんの生の声を記載したり、黒板を書きかえるチャンスはたくさんあります。

黒板 POP テクニック編

1 小さい黒板には、商品名・価格・イラストなどをシンプルに！

大きい黒板には、その他に商品の説明などをプラスαする！

プラスαには、調理方法や今が旬など、お客様が買いたくなるような説明を入れる。

2 色は使いすぎない！

お客様に伝えたい部分を決めて、そこだけに色を使うと効果的。

3 色塗りのテクニック

色を塗る場合は、ある程度塗った後、指でぼかすようにするとキレイに塗れる。指で伸ばすだけでは輪郭がぼやけるので、再度、輪郭をなぞるように縁取ると見やすくなります。

お問い合わせ

日高振興局 産業振興部 農務課 農政係

電話 0146-22-9341(直通) FAX 0146-22-6343

〇〇〇黒板POPについて詳しく知りたい方は、お気軽にご連絡ください〇〇〇

●〇●直売所の皆さんのワークショップや講習会で書き方など実演します●〇●